

# スカンジナビアン・スタイル

vol.26 2010 Autumn 洗練されたシンプルで上品なライフスタイルを北欧から

ヴァイキング&琥珀物語

## VIKING & AMBER STORY

Stockholm 冬と夏

伝統とぬくもりが彩る 北欧のクリスマス

フィンランドデザインに会いに行こう!

「HIRAMEKI Design × Finland」

北欧プロダクツが手に入る! 誌上通信販売  
Scandinavian market!! スカンジナビアンマーケット

scandinavian  
style

Ss

840yen



# Scandinavian wave

## スカンジナビアン・ウェーブ

スウェーデンから発信、あふれ出るデザイン



Photo by: Stellan Herner



Photo by: Stellan Herner



Photo by: Vince Reichardt



ステファン・デルストロム社長率いるスカンジナビアン・ウェーブABは、スウェーデンのストックホルムに本社を置き、2009年に東京にも日本支社を設立。北欧とのビジネス展開を求めている日本企業や個人の北欧とアジアをつなぐ架橋として若手デザイナーの発掘やブランディングも手がけるマルチ・コンサルティング会社だ。グローバルに動きたいと考えた時に一番の壁となる言葉の問題も、スウェーデン語、フランス語、英語、日本語に対応可能なら心強い。様々なバックグラウンドを持つスタッフの得意分野を生かしたビジネス展開は、まだまだ無尽蔵といえるだろう。スカンジナビアン・ウェーブでは、北欧デザイン雑貨ショッピング・サイト「Living Swedish」を運営。“本物のスウェーデン・スタイルをストックホルムより日本の皆様へ”をコンセプトに厳選されたスウェーデン・デザインを紹介、販売している。

ハンナ・セーヴストロム / Hanna Säfström 

大切な家族、友人たち、それに自然は、  
常にインスピレーションの源。



ファッションカバー Photo by: Stellan Herner



ハンドプリントのスポーツワイフ  
Photo by: © TAKUJI OGAI



DATA

スカンジナビアン・ウェーブ株式会社  
■日本支社 / 東京都港区六本木1-10-3-901  
スウェーデン大使館ビル内  
メール: info@scandinavianwave.jp  
www.scandinavianwave.se/ja  
ショッピングサイト: livingswedish.jp



コットンバッグ エルサ



Photo by: Clara Herner

インテリアに装飾としてペイントを施すデコラティブ・ペインターとして15年の経験を積んだハンナ・セーヴストロムが、新たなキャリアへの挑戦として2008年に発表したのがテキスタイル・コレクション「FLORA」(家族)。花が大好きな母、エルサさんから「ママ」が生まれ、教授だった祖父、ベンクトさん、人柄から「ママ」が生まれ、このテキスタイル・コレクションを彼らと共に世に送り出したいと思った。

テキスタイル・デザイナーと、デコラティブ・ペインターという二つの異なるキャリアを持つことについてうかがうと、「どちらもクリエイティブな仕事であるという点では共通しているけれど、デコラティブ・ペイントの仕事では、いつもクライアントの要求に応える形で仕上げていくのに対して、テキスタイル・デザインは最初から最後まで100%私自身が仕上がりを決めていくことができるという違いがあるわ。それが私がテキスタイル・コレクションを発表しようと思った一番の理由。デコラティブ・ペインティングの仕事で実現できないと感じていた自分のデザイナーとしての欲求から生まれた、という感じかしらね。」

デコラティブ・ペインターとして数々の歴史的建造物、宮殿、パブリックホールなどのペイントを手掛

けてきた彼女。今までの仕事の中で最も大規模でエキサイティングだった仕事といえば、2007年に行われたウブサラにあるリンネ博物館の大掛かりなリノベーション(クロスの張り替えなどの工事)だったという。これは、スウェーデンが誇る偉大な植物学者、カール・フォン・リンネの生誕300周年を記念して行われたプロジェクトで、ハンナは壁紙を担当。18世紀中頃のスウェーデン中流階級の屋敷の壁紙を手書きで見事に再現した。1742年よりリンネ一家が住んでいたこの屋敷は、1階が住居、2階が講義室や研究室として使われていたものだ。現在では博物館として当時の様子が再現されている。

現在は、テキスタイル雑貨及び、関連商品としてトレイやスポンジワイプといったラインアップをどんどん充実させているハンナ。今後は、テキスタイル・デザインはもちろんのこと、新たに壁紙やマットのデザイン・プロデュースにも挑戦したいという。

最後に日本の皆さんへひとこと。「この場を借りて、私のプロダクツを愛してくださっている日本の皆さんに、心からお礼を言いたいです。そして、ぜひとも近い将来、日本を訪れたいと思っています。」

彼女のデザインがどう進化していくのか、今後が楽しみです。